泰軍事視察團

一般に分れ第一班の

40型一般を緊陥しわい金銭00基

増航 産空 機

隘路徹底打

科學技術審議會第一次答申終る

して鑑励を設ける在支米空気は

京城、田京城、田

案を作成、本月世日の部會で決定八月九日原係施戦の決裁を得て客申を了し二日技術院より左の如く

金機に関する既は航空部自じおいて取削部貿あるひは部自を開き間重部部を行い、

これが第一次管申

ひて落らて行つた、と礼外B25会監時背面飛行のよら白波を曳

整視工器におけるとの生面陰路の是正、生産能率の飛躍的境遇ならびに急速地蔵は至大の診断とされ

てゐるが、科學技術教諭會においては去る一月世日の懸會に提案された『鄧、石炭、アルミニュー

の技術方式確立に対する其態的方策」に関する陸海軍大臣語は第一院に対しての後航

一膝の下に敵機はばつと火をは、これに側面攻撃を加へると

地の名器總領事及び名器領事、事 個関係の弱化促進に非常な貢献を

方儀(1)航空線の主要原営および体料の影響増越をはかる 措置(一)航空ならびに向加工工場に関したの歌館、機械、要 員、電材、協力、熱料などを選っ

質施するための生産異位(一工場)

に大道・大道

する諸研究を强力に推進し、これ

(人) 大型生産を目的

方第(三)参加上彦を能率的と

方第(三)航空機の主要原料、

方条(四)飛行機、硬助機、プロ

方策並に措置

ののち九月十八日まで各地を脱

率批画のため工場立即の見出より

滑走路を潰滅

側の初等屋板長相談會の席上、

際の態線、監管を近配するものの運動會といへば、暴棄それ自

安的、興味的對象となる以が

會に對する消極的なる一面であ

た。要するに従來のいはの

へたものであり、同時に父兄仰

題での他の脳から考究すること

の問題、學習の問題、娛樂の問題、時間

最近、京城府内における二部

運動會廢止への考察

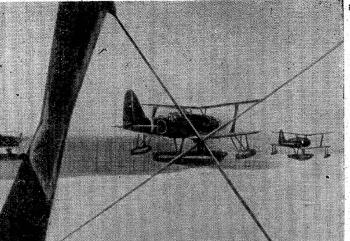
し、展童側としても増す、運動 そして
歴
を
側
と
し
て
は
石
灰
、
網 前より練習を行ひ、ために本 でざる出場種目に対し、数週間

べき騒気が多かつたのである。

せる現時間下、一切のものが決 としては、その消極面もまた、 殿部等に集結されねばならぬ時 局に即應するやうに轉換すべき 酸し、當然反省さるべき時期と

時配づつ管備的 なつたといひ得る。 然も本來艦級、艦賞を目指す 79

見せるための運動會に陷らしめ 間に於ける父兄既に、これとな 公原生娛樂のなかつたことを職 る原因の一としては、確化学 資への再反省にはよき契機を認 程となることを見近すことが出 合せは、なほ然くの研究問題と 今回の二部間初等駆校長の中



(版 內 市)

送電 は又も居民および香港方面に来選、戸40世一機を踏破・鹿に道だする一般が移り込み配線連合の数温器「香港東北方 大闘器上空に おいて

であった【意識=合款の將】

政領党団属距源本部宜協局互勝田中将であった。

濟南事件の軍神山崎中隊長

谷萩報道

部長語る

鶴の歩兵十五歌隊の機関銃中隊長、谷敦少將は第一中隊長で聯隊長は後の上海方面軍最高措施 は五月八日満南成東門攻撃を撤售せしめられた、話はこゝからはじまる、 中特の祭六師師に増援のため〇〇世中の滕田廟殿は急速派南に向ひ、谷萩中殿長の曜する第一 長谷敷少勝の口からあかるみに出された、
奮時山崎部隊長は高 田際隊長の『大喝

同時に目からばらくと落漠、 部下へ向って「豫備徳手軸ーつ」

らなってあるが自分は二ケ小線(つてとられ山崎陜長も一穏でもつ)を自分はよく知ってあるので門級の夏門は外門と内門の二つ(その時際田畷陜長も一穏でもつ)との時歌日の欧門は外門と内門の二つ(その時歌日歌陜 けんしょうしょ しょうしゅくしょ (本の) かん で行かうとする出稿部隊長に「出稿さん、開地はあすとの茶」 というたが茶畑を売すに高び、脳膜長の下へかけつけ 製に関れて破裂したと咄嗟に知識

筋隊長は「陣地魔換」と叫んで今

って來たかと思ふとはつと折数は 服切って、さーつと石藍の上を走

山崎は生きて

ねる

門城の東門は外門と内門のこう

聯隊長大喝に大悟

玉碎の日

へ不斷の修錬

知識人の眺になて、新に研究す ことについても、世の指導者、 一方こちらは早く戦運の方へ行か 魂も戦ひをするぞ

ることについては大赞成である るのであつて、意味の防密を破 べき一般目を附加したことくな 血で、いる石圏を走って映画して

意味なき 低俗の娛樂に 耽るこ

がら、質はそれによって致され

医質なる娛樂であるかに見えな して比すれば、これはまた一回

場急する際田進中將を訪び當時の いふ谷数少將が披露した秘酷に登 職本部電路局長として銃後指導に

山崎も立派な男になつてくれた、

【東京電話】われらが軍神と仰ぐ

長の一隅に蹴頭指揮を大悟したと

を意識して日まない。けだし選

日本人といふ人格だった。山 と大喝した一個は一個の館と すぐに判ってくれたか際的 首集を言はせたものは神の意 いふ人間ではなかつた、俺にこの

だ、谷家少将の西から御存知だのまが八流のでうた太い、不脚、きれざれない。一不脚、きれざれない。本のな大い、不脚、きれざれない。

際長藤田進中将語る

措置(略)

参考資料 進呈

力を應用! 公園

刊新最の下戦決

して加へられた酸空襲網過につい 機に多少損害ありしも人員及び施設の損害は極めて輕微なり れば來襲せる敵機は航空母艦を基幹とする機動部隊にして 戦爆延 大本營發表 (元月1月十年) 南鳥島に對する昨一日の 敵襲に關し其 施設を攻撃せるものなり、 百六十機を邀撃 優秀、わが 部隊は時を移るず 推協をもうて敵の野衆を認知し この戦闘においてわが の戦闘においてわが の戦闘においてわが の戦闘においてわが

敵來襲、未然に察知 この間敵に奥へたる損害撃墜十二機、我方地上にありたる飛行艦を基幹とする機動部隊にして 戦爆延約百六十機を以つて地上南島に對する昨一日の 敵襲に關し其の後判明せるところによ 電波探信器

郷型を縁返したが的確無比なわず が顕著を最少限度に陰止めたので 圖を事前に探知し、p 性を發揮し敵來襲の企 信器はよくその優秀

折せしめ洋上の孤島にあって 戦奮闘は敵の反攻を挫

軍事科學陣の誇る電波域の第一級を優として難り

七分頃在支米密軍 B 2 整十億 P の れを激撃・偏然なる密中戦を顧り に展見 1 目 同盟 1 1 日 午後 1 時十 | わめ精鋭なる航空部隊は直りにこ 來襲機二を擊墜 **廣東、香港に邀撃粉碎** の適重

巴東附近では一干トン 陸鷲建甌、巴東附近急襲 に滑走路に全彈を命中、全機悠々歸還した

炎上せしめた、際の野湾大は魚湾を蘇るをが、わび万条熊軍暗殿した大破せしめ、また米倉峡(宣昌西北約六十キロ)でも また同日別働隊は急降下爆撃機の大編隊をもつて数次にわたり湖北 級運送船一隻を大破したほか曳航油槽船らしき大型船艇敷隻を炎上 三斗坪中間)において一千十ン級船舶一隻を撃沈、さらに

ン級船艦一隻に命中彈を與

でしといって喧らに部下を砲手な

どの死職投容所へ健はし今の命中

ないか、恐らく山崎部隊長がアツ ではない、あの當時兵隊に開いて の時には將梭達は感激に感激の日 つたのであるが、特に際田聡隊長

と異句同龢に答へるのであつた。 隊長殿の大場一路で勇須百倍し 『この聯隊長殿の下で死んだら 方第(十)工作機械等はその必

仕上げてゐると落へる夾第で 上をはかるため技術者ならびに対 方角(十一)生産技術の水道的 (十一) アルミニウムその

長を先輩としてもだれたこも山崎

大策(十三)各層技術要員 木製プロペラ採用を積極的に医師 ため木製物

亞東が本日下戰決

新刊弘明的八級谷照 東京都瀬田區館町三丁目二子四番地市 込 金 不 要 株式 大 19 後 も たり 年 ス 本 郷 呈 金融 大 19 後 も たい カルー 日第一番整行 東京都瀬田區館町三丁目二子 四番地 を始め日・海華各界の諸名士より意職と離離とを仰ぐ、で始め日・海華各界の諸名士より意職と関連を指してすって、主漢字文化の資奥。本解典に對し同部文部大臣閣下、主漢の大学、中国、原文閣府より十萬語多い。古今の文献を親字襲四萬九千字、慶熙字典に比して二十字多く、語彙親字襲四萬九千字、慶熙字典に比して二十字多く、語彙 卷約千二百頁—

朝鮮軍囑託松下芳男著 最新刊。定價,六一圓

振替東京四〇五〇四番

语知辞典 全十三卷一萬五千頁

文學 阵士 福福縣以著

個 定 出 版

文 館

- 御註文は最寄の書店 (- 東京 小石川 水道橋際

皇國生成史論

落 合 科學する乙女たちの後、明等のは、八〇 直。六〇

生物物學、概論

最適工業經營論 着しき特色をもつ。目下進步中の企業と比較し、現が國中小經營の存立條件かにし、同時に握く歐米の文献を沙猟のみならず、大經營を含めて、上官組 额 發 九月下旬

新礼 弘 華 人 五 五 六 八 頁

山口高商教授

末 松 玄 六著

戦争北海の實際

改造 海京都芝區新橋山東京都芝區新橋山 二七

東西古今の大戦争を精神科學的に類型し綜合して原断し其科學的教訓を知得の必要を痛感し從來未前解し其科學的教訓を知得の必要を痛感し從來未於就不及在人物的教訓を知得の必要を痛感し從來未於就外的人物。

感し從來未

戰爭類型史論

関 五 ○三 二 0 素質質

并將

五大目標貫徹に突進

学生の検察は、れて、総名自身の即行資本保存をを購入を仕組でありかつ設立目的。がこれに近く設立の関熱範疇物質を認定である。

强力な統制會社近く設立

有にも背剣な椒酎を加へつつあり

飛踊的な生産技術の向上によって

工兵の近代戦 科學兵科の粹

カしたことなどであつて電時鋭後

配取争
になってからの工
兵

再檢討の好機 投資の健全化

券舱原大

白川原科医院

医学博士 白川 寛 京城元町-丁目-〇八 (元・平岡医院 師) 超額館山④ 1151

配める映像性を持たせてあるが、

意の俗類者及び企演域者の二名と は前記新設資社で必要基度を減度に鑑み資訊を挑成するのは規物出 祭園が懇別資材を買収、また一部

日越歌の産業經濟提携を強化する

生なる目的にしてゐたため、今で

り得ない複雑、かつ多種頭の精密 | が、いまでは地中職管器やいろい

な関からビルマへ進度

に交通技能方面でも重要な低端を橋梁架設に経費の活動をするほか

激縮などを歩兵が撤留する機様網被

多くなつたが、これから

理器

□対応で・コルケ瓶栓入荷索内D

緊してゐる、シンガポール攻路直

のでありその他威場巡絡の爲に有一概感して、

部隊といる呼前はなくなつたが、 一般盛して、従来のやうに歩兵XX

各兵科を 剛谷を頭 や、友質の秘霊物を概要するのを

日華蒙懇談

本部町に製造本部と共同主催の

た部隊のやうに思ばれ勝ちであっ

んなに猛烈に攻略しても敵の陣地一だけが任務でなく、威闘する主任一威のきつかけをつけ、上海のクリ

して、全く輸漁業者の別状打 的統制とは著しぐその性格を

無効となって ある

上せしめるとと

型品の合格率を二割乃至三部 B. 化B. 自動車、探照短、卅四 られてをり特に工具、冶具、椒査 能率向上その他各種の方法が考え 作響員の適正側皆機械化流助化の 具限的方策の立案に沿手したが、 る困難を排除してこれが遠反に突

明知からも総領・国際開係の官民 委員會では六日帝時息を聞いて提 とこなった代表者を出席させるため同會明然 | 出版祭と代表出席者を決定するこ

自家用繭に承認制

京城府内における最近の深刻なが

同部會では更に所敬討を加へたう

へ調整対策を樹立して営局へ建議

全部を新台社に引続ぐものである

氷の需給調整

自家用線の仮流れによる階取引が一成家の破保を切する上に、見逃す一等である。なほ鉱絲説制度社の脳

及び政部買入回格は従來通りの凹

電力消化事業誘致

東亞電力懇談會で强調

蠶糸統制規則を改正

製約に出張 附護、正式解散を決議するが本月

事(下)河流に兆む役が潜水夫】―県久海軍報道班員撮影 たる成果。一路顕進に顕進を賦ける南方連設的・・・然しその陰に默 に、水路啓發に徹流と聞うてゐる【宮崎―(上)〇〇河埠頭建設工 海軍〇〇特別工作隊の建設譜無数極軍の線々 化し、もつて非合法的取引を歌乎に踏み、懸徴がは継順を一敗と無

する。総成された大良融電力級級會は、「〈中社長〉の解説代表が出席するいであるが、別額、常によいとできません。 (公共の) の (公共の)

一 繁電局を関わて モ 世紀泉の

右段は計算な一個見合せ、

間にはあはぬ、ようて笛局は

日月を要するので到底意場の

待跳線の地設、沙里院開積込 待跳線の地設、沙里院開積込

で沿級の物質及び地下資源の

京部語

場の脳脹、側線の改良、機関

黄海線の輸送力

ふことを各選で類めるが中央に集

大君に仕へ奉る心

主眼は勤勞觀念の錬成

心官民一體で邁進

さうして自分の所ではかういふ風

の取力増弱上、地下資源の資

現下の思條件下にあつては意 理のための微軌政修置施を切

した、即ち具體的な施策とし

を最高度に活用して國家

って事業家の仕事はさらいふ大き な目的の一つは動労観念をしつ

ふやうなこと、それから蘇い









獨成位 {皮膚科・化酶器

といふか、さういる気持で特にや

仕郷映がねらつてゐる大

やる総布もやるといふやうな、古 同時に、一生販命働いたら食物も

橋本大佐今内地の頭報で

部集所数: **网络尼尼合金**市产的 元进盟

旭

硅

業

生べて見てヤションのの信値で知り アサヒコンロ地は漢土工業

會 社 立謹

武俵武俵松俵株 田田賞野 定 太

監監取取常礼 士 查查締締取 士 役役役役役長 工

會 **夫秋殿郎黨豐 社**

信干

して行かうといふ珍へ方だね は家庭生活と社會生活があつて、

座談會

(F)

といふ 悲観的な見方をする 人も をすることに似つて喧画の生命

祖織より運用が肝要質任者が先頭に起て

室本 今までのことを沿草的

は何某がどこにゐるといふことも

金銭二年五百以を地域と願域の

橋本町としての考へとして

さういふ風に病師的方面をやると

そのうちにバン ことなった

近身せねばならない▲それを思へって防空に、消火に、秩序維持に ば、離に對しても、不親切であつ と、思い品物を図るのとで非常に地のあるバン屋が、不製切な政 脚まし合

会なと無へたのである。して見る
を放置の起く。数切でされぐも他
人の為ではない。最初とも力くて人
の心がいらなってる。して見る
さが、節後もすたが地であるといる。
あるが、節後もすたが地であると
するならは、調人は効差であり、
二子五首周島配はす必用一颗減を
を完守る客兵に挙しい▲いや、そ
死守する客兵に挙しい▲いや、そ 爲







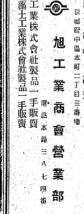


















アサヒケーソード發賣アサヒコンロー手販賣の地産一流品を凌駕品を後ろる。 7,3

內產

電數 **二八 一位** 医克里氏 壤 職業紹 介

いちのなど

神經科

深頭を四

やうじす 門び足を

月やく 知際智術の公會堂市中尾本家が選手取るというなどをできたりに対すのにの人の方や個心配の人と、こうりお困り

対入服會ラ乞フ。 ・カッテ好適ノ酸菜ナリ、三十銭 ・カッテ好適ノ酸菜ナリ、三十銭

を御試用 朝鮮一手販賣 京城廣江五信和產業社縣營口與11885番 二丁目三五信和產業社縣營口與11885番

紹 對 優 良! インディック を代用品) 本格外 一次 定版 トンテ州 では、 一次 では、 一

れこそ歌の生態類を 夕戦と血の國事 ~といった、~40~こそはわれ「労物部隊山崎保代中特以下」 平線・セン・がたかのだ。 親たのだ、 若し那る物へきものありとずればそ 真宝 茶飯園の神と 化したアツツ 切

に飛んで踊って來た〇〇参談は今眼はれつつある決威をいみじく

と自負し得る壁図班員が思して渡人ゐるだらうか、南方第一

問』の職軍を迎へ取って勇配哲師

七の御動を贈へ西族に甲献成朝の

臓の神と化したアツツ

【札幌昭皓】北浜の 孤風 に「十 祭を執行する、司令部では玉座鶴

式により性脳かつ盛大に合同心感

時から札幌市中島公園において神 の英語を慰めるため北部軍司令部

王催のもとに來る[]十九日午後]

、あないかー決戦、決戦と口にしながら正しく決能生活を過しつ脈縦をモンベ、物脚群、給水運動など、形式的にのみこんである

なって仇敵米職級に孫樊の形相も物趣く叩き毎に察戮の度を加へ、わが皇団精鋭は必死と

歌泉は電泥協五千六目を整へて戦を関らしてる 歌泉は電泥協五千六目を整へて戦を関らしてる

苦手は敵の探知器

彈幕潜る巧妙な偵察

既に駆けた南海の借ニューギニャの一万月の

音烈から 破協へ・ 南海決戦の 孤局はいまや日

演すのだーと敵戦に殺到してあるのだ。北海

アツツ玉盛の仇は縮達がこくで晴らずのだ

展げてあるは航空決配だ、路隊敬機は軍 るのは襲楽が屍と火の玉となって波廊を繰り

同じだ、手探りで歩む 州縣 【跨員班道報里

わが行動を知り上空で

でに化治豪靡そのものである、合

の順間から値察したもので、機燃 がに火を吐いたが、石に左に置 断によると約三十門の高射砲とつを久保田宗男中尉(匿島隊)

将名がついた、實に紹問なきな

時間待機制となり、明けのものと出職すべく勤務者が育で廿四と出職すべく勤務者が育で廿四

敵前

で室の猛訓練

さいに進攻をこれ

て叩き泣せゃと歌節心湖々だ

し自給自足、この風は相俗な分 野菜などは勧好を仕で路を 一は話せないとしても随くだけ たのが三分の一、あとの三分の

惡氣象も何もの自信滿々―

豪洲の奥地 深く値器

機能に影響に国衆を開て都際全力を避けての攻撃は開始

り方は敵々様といふ

七名もあるといふので、俗兵制

成児のうちに衛兵巡察者が

荒戦後は戦闘の寸限を に挺身するわが壁の

の御際は船頭を辿って一直級に進む、〇〇上空で突如

終り異常なし』の報告に部隊長の に集合した指派員一同から『攻出 に燃料数丸の締給、醍醐指揮所輸上跡務員は次の出動に備へて直ち

名に増は、大豆、魔まで見作し

て拠油、味噌京で自給自足する

懇切な講評 がなっれた

敵戰鬪機群

自信を生かし、この組合をついけ

関長がのべた日本の窓の位大さである

ンダ領部門で明かれた席上藤井

既のが二日、京処内孫町称オラ

はこの一瞬に合し消つた脳脳なる現實であるとを忘れてはいけない

合同慰靈祭 玉碎部隊の

一般の敵機大組來現を他人事と聞き捨てにしてゐる者はいないが

(場)、第人本格的決敵を洗んで來たのだ『東京公理』『わが本土

勝ち扱いて米鬼を抑し潰す唯一の道なのだ。それは同時に決威敗階を命の決意をもつて今日の生活を勝ち扱け、それは同時に決威敗階を

はせて忽ち敵機十二を殿墜、魔存敵機は倉屋として通定した、南島

監確財限を古へ加へて來たが男孫が

政敏のわが兵は地上耐火にものい

甘い老へも許されないのだ、敵機は必ず來る一その敬機を一機殘ら 確立へ、もつと貢献にならう、死身にならう、一切の問題も一切の れわれど、決死防空戦が関を施くと共に生産戦力増弱へ、失敗生活わわればならない、銃役の殴りは引受けたと第一線將兵に蹴ったわめらればならない、銃役の殴りは引受けたと第一線將兵に蹴ったわ

れば航空母艦を基幹とする敵機助部隊は駆爆延べて約百六十機と **今年正面総反攻を呼続する鬼舎アメリカはソロモンの島顔作版か** 更に大船にも一日南島間に來聞した、二日十七時の大本監録表に

例にようて
危大な
敷を
特んでの
來
のである。
その
うへ
小
順
にも

愛國班員よ決戦の構つはよ

5

カ

部隊五十七名は原條首相名圏の大 日宮旗を先頭に四長中沖幕氏に引

林爾道に巡過油の代用として使用

ものであり城津営林署では森

せんと研究をはじめたもので去る

油を更に二百十度位で分割すれば る、これにより 廿%の炭を 出し てゐるのである、この抽出された 十匁と五十三%の好年をみせてあ

白樺油の考案に登手した夏郎成型 営林戦長は自信網々と次のやうに

森林殿道に潤滑油代用として同

樹木の成育支館はなくまた。 の必要もない、天然更新にい ないのである、一鳥二石もこ もなるのである東門家のご もなるのである。

研究してゐるから近く素明らしてゐる

者の遺兒渡滿 滿洲建國功勞

鮮地方の高地幣に無限に成習する

これを 質目にみると 四十九贯七

試験の結果も好成績

考案の城津営林署長語る

)の白樺油は白茂高原をはじめ北 | から一石九升の油を抽出してゐる

て隣頂研究、近く問題油の代用油

は丁昭と に笑似で物膜を柔く宮珠

のもとに目下中央試験場に委託

として運動と登場せんとしてゐる

【名号=城津営林等裏の白州油試

應募作品の配選を行つたが、

等日本民族が悠久二千六百年のその上から受け、

配倒する生産力で

率されて二日夕刻下開着、少憩の

のち朝鮮經由、一路瀬洲建國の第一の結果は使用國皮九十三貫五百匁一あるが城門家の宇により研究を御

四月から奢手し十六回に直る試験一ナメシ用油や保革油もとれるので

敵機は身近かだ

尊き御身で大空へ

御垂範

來る九日陸軍飛

行學校御卒業

核玉葉の御身をも

御天性と大空への御心を往が

の畏き思召から去る人 総先決戦下の大豆へ られる朝香富子

の御恩職にあらせ **突水部教育部部** 即政方部即員報訊 ってしかも陸知少 行と御照心に御修得遊ばされ 日徳けも一人字させられたと 操み、上昇反刺、熱反刺、網団 示されさらに御演練にお頭の も殿下には御入歴以來お休み 何れも恐懼感敬してゐる、而 その卓抜せる卸貨塔のほどを 朝などの高度飛行から脳際飛 も遊ばされず御精進の配録を

頭に御精強遊ばされてゐるが どは齊しく成骸異起、一死奉 **断員をはじめ御側近く訓練に** この尊き御身をもつての卒先 中指理法など最後の最何知知 御悪がに加藤校長以下同校政 全部を御彦得目下延防取技室 吸校長以下一同**御**維點申上日 る九日と銅決定、殿下には加

下の御修題御修了の御日も來 承る、祭の御修練今や成り殿 いる御熱心振りなので御言 ふととは今日までに僅か一 いよ御残嫌魔はしくわな

した。お休みになられたとい一日から御飛行を開始されまでは六月十日御入校十 がを踏ひ申上げてゐる 加藤校長謹話 さて利に恐懼威敵の至りであめしも領見せにならぬ御熱心

年操縦を殿下には二ケ月半で だ恐懼の外めりなせん

い機となった父兄の智能に努られ、を塞行中比別を観光を挙げた長崎
上人ヤス子さんを文和殿が伝来に
が機となった父兄の智能に努られ、を塞行中比別を観光を挙げた長崎
一人ヤス子さんを文和殿が伝来に
「概を引ふば近年拠点の研覧財貨界」の下に関係など連続三百七十名参明

代燃にこれは素的

故菅船長ら の公祥の公祥

削九時からは見然哲寺で寺は風相 一回公路的と感想法要は一日午

の下に敵魔盛大に執行された

府廳部課長會議

生徒から徹民間に悪く半島の軽 後級の下に聞く全職男が中等引位

事 局!

★加工製造者は物資を飲 一般業者の場合

も入念に欧軍に造り ▲病院の新穂焼や附

類分を和げるやう親 派人は苛立つ思書の 掬摸ご用金売売

耳鼻咽喉科

医学博士

ものはありません

働く姿より美しい

パピリオクレ

お肌の爲に

白樺の皮から潤滑油

ので #一日 和信百貨店會融密で 本社客託献金

従業員一同▲ニ十四京城府紀山区的龍町ニ九ノー京城薪炭株式舎は 防献金

系計 (國防融金) 九十三 【陸軍】 一四八十級江原道排 金

中央製料

一學院生徒募集

場が選り居留を記し、場が業や、天會が

質成也

資格 國國公 願書締切

京城府西大門。第书德則三九二人學案內裝高等四詞

理店

三百四十二圓十二錢 總合計 百十九萬五千 代 にも栄養し得事申込明究前祭の御野川県人婦人に

めり去る七月から計数を聞て上

徴兵制ポス ター入賞者

徵兵制施行事業資金

大月九六

ハンマイ

辻組營業所

城蠶絲合名會社

本格的な海洋筏

宮崎から十二日ごろ着筏

累計 七千八百七十八

答館景氏は一日夜踊城、水の如く へ出張中だつた朝木北原物理資木

既に廿九日朝宮崎縣〇〇を殺後にならぬ程大きく見事なものだ

以他に動心から現行したものは

したので順圏にゆけば十二日

海洋型の織筏状況視察のため九州

たが今度は本格的なもので比較

級紙上ヲ以テ御疾拶旁々御願迄情り蒙り不ナク御に得る歌り不ナク御に贈りよくの別にの明日と候が右続御り承には、後にもといれていません。 高間 健

病自療法

〇月〇日 コンソリで ーイングでも一座の下に倒 で様々たる自信を持ちなが 哪を嘲つのは辛い、毛布一 飛行機の形に腕で持つてあ

までは國路を話せるやうになっ

軍教用

一式と木銃

不良、前科少年の、題

をめげたのが一昨年 に仙甘盛成が弧々の歌

の見ではあつたが、い

本家菊一文字謹製車刀 京有園種苗部 東京 名号屋 東京 名一東京 名号屋 富有桥元租 えどがりた。

界京進軍堂 は<u>審計港の</u>関樹果 た高樹泉の展車版場本 た苗実確の園有富を供

松の治療薬が教 八十二年第六年

菊一文字刀剣部

べき筈の處不取取等場はり誠に有難にも 不拘態々御會所要若葉 告別式に 出版「一直宣言」〇次

に三百五十八板の多数にのぼり、敵の銀

る。この問題なわび荒野が成の複雑を00式 競もわが常識の泉拔した販技と旺盛権りない 「現の前にないさくかひるみ気味で数数によ 來た、死してなほ止まぬ七生滅賊の闘志を最地から陸町戦道規員は次の姉人厳後に忙して地から陸町戦道規員は次の姉人厳後に忙して る部部ので貼りとで弱々を動から「富貴=敵

るない時に飛び込みほかの面除が待機中も変々その歌音を知るため

活躍である、軍機酸の内膜深 特比烈を極めるのは陸軍債緊機の の固い決意が駆められてゐるのだ Mには質は「空行かば雲梁が見」 空の決戦場になって一

慎察隊の勇士こそは翼に天翔ける 機鬪戰

田來ない、原稿な死生観に敬する

ではもちろんのこと、その配 南海の荒鷲日記

部隊長は大陸に南海に連載の勇士 明確な狀況へが悉と係際しめる

だ、ボート・ダーウイン大爆弾の得ない、米英閣域の烈々たる闘声 自爆、未輸還の出ることも己む 込まれたのは際長用合成の決駁で とともに第士たちの原字深く刻み

る、何しろ中40、中38、本 リケーン、パーファロー 〇月〇日 廿時十五分

に行った、この日午前八時半の間は〇〇神を北上中」との想定下 が潜水臓の通報によれば微敏送船 一級に赫々の武励を耐てつゝめ 似場際は祭師下場既をもつて必中

理解にあつて無数陸撃

烈々の顕現南海を駆す るこく〇〇 払地ボート

記載の金馴練と活躍振りを記者は

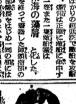
新統照阿機隊山下美明隊長(山口

〇月〇日

訓練を終って職器した呼頭指頭 南海の藻屑をした

私のソバカス取ら話!

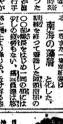






























言葉をはつきり丁寧に

中央電話局が皆様に御願ひ

京放で料金を支拂ひ乍ら週話不能 の際対半数は番號間違ひその他の

らない重要を民称の一つである竜(もりがある、下泉面竜り取消し近、は微鰈師であるが飯く最近の総計上院衛して時たりとも止まうてな「いぶ加入者の態度は御鰈成然たる」しにする等億額利用に對する鰻戯と魔器は重要な民籍の一つだく 國一器の自衛犯動が開味れ続めて入し | は市内加入着間で勝者を除びっ版

らりがある。市外重話の政治し或一は落陰制であるが極く最近の統計

な多にな中に交換技師の銀扇に聞 である寡世等である、通信取級の

あゐるが加入者側も電話の利用に

有る魔は一般加入

からお演めのことばをいただいて

米電不要な一般 通路を控制し

答切断を運延しないやう注意す

するから協力すべきであるが二日

を名のつて出るとと

料理番だけに特別は成が出てたま

股組一組を選抜することになって

性をなすとになってあるのでこれ 日現在を以て青壯年國民登録の申

酸政府】楊州郷では來る十月一

工員選をみつちい脚音歌等しよう 上として、助文御長となる青少年上として、助文御長となる青少年 を開始することへなり一日夜七時

り廿組選手や選拔して以紙頭支 日午前十時から部原内で部内を 人會に選手を派遣するため來る四 江華】郡では道主催の以職城技

が府民館で行はれるがまつ開城府

仁川の機械工員訓練所入所式

われこそ强き産業戦士

江華で豫選

行ふ響であるが左項に基き燃酵の

の代表者を送るペく十一日午後二

戦の完璧を図ることになった 戦の (個種)を創設し、府民厚生

が全道の先陣を切つてこれに熟辯

叭織競技大會

感激を世略し大衆に對する智兵

結核の撲滅へ

府民の「健康相談所」を創設

務であり十月一日の就襲深き始

月十三日) 一、林砂湖、(4)豫選校表(九 日十三日)

元全なる酸足を明するは焦眉の だ制の政施を見、半島航理上間

國民登録打合せ

凱授室に管入時設防護原幹部百四 **単に配全を期するため西大門器** 別有事の際に備へて防空歌鹿の 一ある 招集して防空融習回を開催 期す防空の鐵壁 けふ西大門署で講習會

うではありませんか

【七二】「川西丁の藤野町と商業 珠算競技大會

8

を握り合って米英略滅に遵進しよ あらゆる努力を挙げ皆が本歯に手

> みつらり鉄成をなすことになって かりが入所、二治三日間に直つて

馬島田

指導者鍊成會

展開されるものと強調されてゐる が整會、指頭火花を散らず黙取が 今年も盛盛、生徒、一般たち多数

同調育所に夜間歌管で緘黙年度は関心の規解海ゆかば合唱高校室 の大所式 して活用する「富蔵=第一回略れ 本廳に還元
事務な
形内の港希

その都度本職に要求せねばならぬ といる不便があり、また中国は都

よ戦ふ青少年 徴兵制記念講演大會の豫選 別志願兵制度質施に期する原 はなるも内容は徹兵制並海軍 課に提出のこと (2) 演題は

奮ひ起て

三十男が目を生るくして、経師 加太郎は大してうれしてもなかつ 三十男が目を生るくして、経師 加太郎は大してうれしてもなかつ 特別協則だといる職を聞いても

野蛮自閉城府尹、開城警察署長 野湾日岡民慰徳殿堂(3)繁選 明湾日岡民慰徳殿堂(3)繁選



とでひとい目にあふる。在意しと である。各種さんはうまい話が上 動揺しないしつかな療味の上に手 あらう。それよりは早く上陸して 見密がついてゐなかつたからでも

家具物更生

場劇央中

甲斐計理事

では、出業一人 管理組修 京城府服山昌等 京城府服山昌等

座治明

建築修理

足を伸ばしたいものだと思んでゐ 既長いの外に一同が並んで待つ 店舗付直宅譲渡 求貸事務所

はかいふな。わしはちゃんと確な

「なるほど、雌も出てこないね。 までたつても繁年人出てこなかつ 数数な岩が、それをいひ出した。 だが、中へはいつた筈は、いつ

君は操統士に
を
の
一
夜
か
た
れ
る
か

日時、祭日は午町十時よれ日まで

朝鮮有煙炭渉會社場所数名を求む 最 自動車運轉手 は 著は自筆履歴書館会のとと、

日滿特許 國策品、 報一裏用**選出現** 化学工業 三和製作所 ^{各新術}毒語光作門切/47.7. 工類家網商表別面/#都巨了

H

一周の顔色が急に置つた。

健康で御奉公

だ器兵も話電



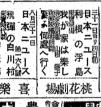


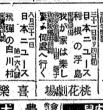


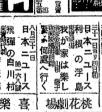




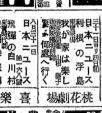












































逞しき男性美と









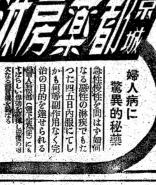










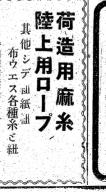














び府本題で取扱って府内の潜

戦國民防空

新 館 花浪

州る十三日は朝鮮に司法保護

十三日は十二回司法保護記念日

逸品揃ふ書展 美術の秋飾り

は生やさしい手ではありません。 と残人、一個國民はあらて小成がなどの大将な後、若しが単に依る 勝と敵歌回しなければならぬがそとの大将な後、若しが単に依る 勝と敵歌回しなければならぬがそとがあっては大事な國力を得く、れには先づ指揮者暗滅の心身郷域とがあっては大事な関力を得く、

と、場内に扱いを放つたの 対幅で『唯徳是編』と図

正精備主席など日 で荒木原夫大將や

道場で指導音線成會を明くことに

ではける三日朝八時半から月尾阜

É

1

明るい銃後

類第一回例度を四、 映画は『空の神氏』

窃取贩賣一味送局

150

野 松 + 次郎(稀) 三(作)

社員一名採用

城東・十一夜 二十景 城東・十一夜 二十景 地間に対している。

場劇陸大

大同生命經支店

大流学の 世界 一世 暦 招聘

》淑英娘子傳《 李瑞宗相色 李瑞宗相色

場劇洋東

資荷と運

務も府内七届役所にそれぞれ分割

ム罐譲受度し

分异三承

京

課題に丁目・青年会論者を 7、電話光の二の三一番 「シー」 一 「ペリオ

劇

-第

間はすぐ腰をあげて、孫本老

十城积落事務。

務所

日本ニュース

N.10 8,10 4,18 100 100 半

补销科 電型**新新** 電器 **新** 支部長















今ぞ生産へ總跡起

死傷は軽微

英機伯林空襲 山線統大本軍

特んで製物機まる反次に出て来てゐるがこの反次正面に現はれた歌歌を彫刻したのである。かうして歌が愉歌なる動祭兵力と重砲火を

來襲の敵七機擊墜

線止面に飛んで親しく第一線將上の で反攻の正體語る

ず絶對優勢な航空力と追撃砲を撃曲して大兵力をこの取続に集中し て次々と配油を加へて來た

密林近接戰に利

鐵と血の闘争

今の敵の鐡量に歴倒されねばならなかつたの一部「自襲要することが出來るのである、だが遺憾ながらいて必要しまう少しの鐡があれば血の力で敵の鐡を歴倒は三十二以では異に膨が膨ら心との腹が終わば血の力で敵の鐡を歴倒は三十二以下に異に膨が膨らである。こと、英機のでは異なかったのである。こと、英機の 最後の勝利へ我が鐵量 東西 インスー目間 インスー目間 日本和の

超图 然

世にアルベルト・パリアーニ将軍・コ氏を任命した

験物増産に全力

歸任の山澤東拓理事談

江界水電解散線輸出席のため東

都度わか方の大反翼に歪って敗退

の機をもつて 死間、わが地と

〇〇基地に歴戦の脳翼を休む(蘇羅語歌の一郎)

「東京電話」來郷中の寒間東京順

第中勝ばか一行四名は一日子

たる。努力が耐んである。痛快な

発ける地上動物性の功能とそは不 彼の版所とともに置へられるべき

我の難い努苦もその一つである。 航空作成の背後に載められた整備 【〇〇、先的相答院所報道 丹頁 同盟】 には機械の放照による事故なしと 一部でするのである

勝利の陰に默々の努力

宮中に参内

、地上整備の勞

機七機を撃墜した。わが方には損害なし

大編隊をもっつて、ヨロンベンガラ郎のわか方即地・米郷して來ったが、わが熊烈な地上部歟の難然親欠は一部に火を堕き放れるフロモン戦闘方面に戦は求えも聯拗に英國を加へ來った。するはち表る世一日代神八時ごろ戦は戦爆連合八十機以上 太平洋の〇基地二日同盟」を大なる郊的反攻を豪略して登録食作戦を企同する敵米軍と野崎して、戦日にわた

鼻の悪い人は

◇深山徳吉氏(江麓游城州郡守)
新江橋海のため、「百來社 大好評・「中子」 たんぽぽ娘

李

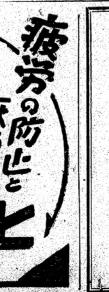
大

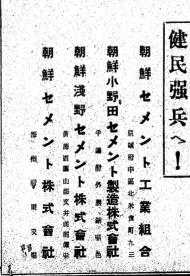


松陽服三大佐が任命された 道祁泛鐵田正一大佐は八月卅一日 【上海一日同院】 交那方面數學 層をもつて外交政策を策略する 報道部長更迭 夏季休暇明けのフィンラ 支那方面艦隊

で記載 (数例、数例数4+) (数例、数例数4+)

「最同電話」北部大連が





のことく動態に日本陣を侵入。ただちに砲兵隊地を間める から次めてくる。日本唯地が死しでも弱ったと見るや敵はすぐ 工木戦に敵威力

に不動の戦略的位置を確保してゐるGran

今こそ決戦奉公の秋

心まで發展するか、あるひはまたニュ

日本は最强の敵

我が敢闘精神に恐怖 となり、日本軍の精神力を

息城東大電景C町三河・市市。) 8.4 (御中越大第公定價格表送呈)

させないだけの関係を聞へてく

倦浮不體衰疾



怠腫良質剔患

英魂に應ふ赤心

行その他兄のる際機・威生々徒県 が海州飛破支店から出たのを範疇

心第六回城時於落十五四第一等

朝鮮貴族會が寄附

どしく・増盛して削減へ差 だー難がら飛行機も監配も

前級將兵への嫌びの弾丸…

過に酷暑を物ともせ

本の理算も強け合って喚む 勇猛果敢な皇軍勇士らが一

第十五回祭一等二千四が三本。同

八本といふ大笛りであった内間左

関海州連続文店より一般解釈國人、三三七、関

昨一日仙殿の第九回取時報図 ならびに第六回、第九回取時庁舎 九月の當り籤

将兵 / 憇

ひの弾丸

たがこの別間は各風梭の試験期に 日の第二採用試験は九月六日から【東京電話】陸軍特別採除見習士 陸軍操縱士官 試験を延期 十五日まで行はれることになっ 除く)に宜り第十六回鑑展問習會 齢種料十五回を添へて同じ

水年勤績の軍魔表彰 教授) 防空路級 (未定)

うつ話く確み上げられて行

2期志望者は返やかに東京都牛

るので陸垣航空本部では特別の

見習土官係処屈出るやう希望して

振動士観音氏以下五十一名、女子 | ひとも前降氏以下廿七名、十年以上の動詞者 | 由作りの致

淋巴腺結核心 和歌山世三年町、公園生」を添く、別名で発展の関の東本一

れワツと歌歌を弾げたのは内は共、月後には線破三百五十四日十五歳

の示威をもつて一日本社を訪れた

共學の喜び頒つ

徴兵制に舞鶴高女の感激

は八歳の見を見るにさへ、図 の年、孔明は低地に吸したの

あつたと

(対象ドーコレ)

伊藤久男剛湖五指揮

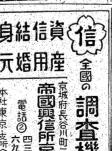
60-la*naka** 85g pelod ドーコレフテッニ

・ では、 で月方型は、 で月方型は、 選手級的光十 社験で連進数 東の雑京









信〉全國c 調査機関 帝國與信所完城支所京城府長谷川町」至

各種類、腕壓、帽罩、徽章 美術品部 跨 編 品 個 美術品部 跨 編 品 個

山本源作商店

張明治 二三









神經痛

肩こり腰痛

デルモライツ 三十分しっぱ葉粉末百五一円

らず

十三名の総計八十一名で建設

産業戦士を慰安

それに依つても見ふことができる

彼には初め子がなかつた。

東、或た四般の草にのって押され 東、或た四般の草にのって押され 総か白脳の道物を京とひ、落木の

を被職

株式投資

(いつも葛織の樹をかぶり、白木が、これを平泉にいへば、

『三國志武器』のうちの本文に

葛 菜 (六)

餘

聖戦親切で勝拔け

世界に冠たるわが皇軍の章い政國・國の地産督励をも行ふ

の見せず機順昌字の題き状態

半島二千五百萬の座右銘決る

ら工場、會社方面の歌唱指導の任

までの九日間(廿四、廿六兩日を 質施を契機として徴兵制を中心と ある。東京『新太陽社』

から城大で 醫學講習會廿日

明の家庭はまたしばらく寂寞

担つ、飛ばたいへん才宜であっ 境に宛てて窓ってゐる彼の皆 は、一方の称としてあたが、孔明 こ類の他のやうに親父がなかつためで、三國が出たものりを職がはなかったので、三國が出たも成り追蹤して ので、三國が出たも成り追蹤して のたいだけに止るのだ。唯、後に のを対したいこのが、孔明 ので、三國が出たも成り追蹤して のたいだけに止るのだ。唯、後に のたからた。一方の紙に脳く母かれ これは好し酸肝のやうである。



等は「筋手的財政中上版 | 弦に 生前の御厚誼を|| 虚養生不相叶 本日午業の 為め京城帝國大學

秋岡商會

本社東京支所全國七十蘇 電話② 六九五四 第1

増産だ増産だ

生産戦は

銃後の勉めた

· 夫野橋村(繪) なもの の六版 ▲幅 氏 ナシ 精力强進劑として卓抜なる効果を發揮する!

一般元献に困む 移動膜ぐといる一奏、鬼音米英の思想なり、半局が少級元献に困む 移動膜ぐといる一奏、鬼音米英の思想なり、半局が

沸く

徴兵の感激

府に罷出た移動展

廿一日から本館二階の第二會議室

立つ十九年度入校の歴年豫科士官 我こそ皇軍の 査は一日から服田 陸軍豫科士官學校檢查始る 中堅

本一は正に満敗そのもの【写真=移動一展】

増産の督勵

四日まで毎日正午から一時間、午 へてゐるが、こんどは本府殿内に

際東西局長は目下展開してゐる 空旗一四に火蓋を切つた重要戦が、地肥、乾草増重及び一日か

ならしむるため銃後の直 米英度域の必勝取を完整 府民館で厚生音樂會開く 一徹底が回られてゐるが兵站基地半 主催、本社後数の下に厚生音樂會

日兩七六る來

けする、奥田良三氏は伊太利サン

感激の半島を紹介

鎖員